

言葉のナイフと平和の武器

一宮市立浅井中学校

脇田 わきた

峻平 すけい

「戦争をしないのが平和なのだろうか。」

そう思ったのは、ネットでの誹謗中傷の被害について、のニュースを見た後だった。確かに、ネットでは簡単には特定されない。けれども、特定されないからといって、根拠のない悪口を言うのはどうなのだろう。悪口を言われたら、誰だって嫌な気持ちになる。名前も、顔も、性格も知らない人に攻撃されるなんて、

とても怖い。それはまるで、戦争はしていかないけれど、言葉を具現化して「言葉のナイフ」で人を傷つけているようにも見える。もし、この世から戦争がなくなったらとしても、人が人を傷つける限り、本当の平和は訪れないのではないかと思った。

そのうえで、「本当の平和とは何か」を考えたとき、僕は「言葉のナイフ」の反対の言葉を使うべきだと思った。なぜなら、傷つける言葉があるのなら、同時に、太陽の柔らかな

な光のような優しい言葉もあるはずだからだ。
例えば、つらい時に「大丈夫だよ」と言われ
たら、そつと心に寄り添ってくれる言葉だと
思える。また、皆から誤解されて傷ついたと
き、「あなたは一人じゃないよ」と言われた
ら、救われたような気持ちになり「自分はこ
こにいていい」と思える。言葉は使い方によ
って、冷たい刃にもなるし、人を助けるあた
たかい気持ちにもさせられる。春の陽だまり
のようなあたたかい言葉を伝えれば、自分も
相手も、聞いている人もあたたかい気持ちに
なるという良い連鎖を生む。逆に、冷たい刃
のような言葉もまた、同じように負の連鎖を
生む。
言葉は目に見えないけれど、確かに人の心
に触れる力を持っている。だからこそ、使い
方ひとつで、誰かを深く傷つけることも、救
うこともできる。優しい言葉が広がれば、争
いのない世界に近づける。それは、戦争がな
いという状態よりも、「本当の平和」だと思

う。人が人を思いやり、尊重し、支え合うこ
と。それを可能とするのが言葉の力だと思
う。今の社会では、インターネットを使い、誰
もが簡単に言葉を発信できるようになった。
便利になった一方で、言葉の重みが軽くなっ
てしまったようにも感じる。だからこそ、僕
たちはもっと言葉に責任を持つべきだと思
う。優しい言葉は、ただの慰めではない。それ
は争いを止める力を持つ「平和の武器」になる。
世界の人々に比べれば、僕の行動はほんの
小さな一歩かもしれない。けれども、本当の
平和になるために、自分の心を育み、まずは
自分から変えていきたい。言葉を変えること
は、いつか世界を変える。そして、そんな一
歩が集まれば、きっと争いのない優しい世界
が生まれるはずだと思う。だから、より良い
世界のために、言葉を学んでいきたい。